

SGI® InfiniteStorage TP9500S Storage Array

特長

- ・ハイエンドのシリアルATAディスク・ストレージ・ソリューション
- ・2Gbファイバチャネル・コントローラ
- ・コントローラエンクロージャあたり最大224ドライブ(56TB)をサポート
- ・マルチOSサポート
- ・包括的なストレージ管理



セカンダリ・ストレージ用途に最適なソリューション

ハイパフォーマンス2Gbファイバチャネル・アーキテクチャに手頃な価格のシリアルATA (SATA) ドライブ・テクノロジーを組み込んだSGI® InfiniteStorage TP9500Sストレージ・システムは、セカンダリ・ストレージ用途に最適なシステムです。堅牢な機能性をもつファイバチャネルとテラバイトあたりのコストが低いSATAドライブを効率的に組み合わせることで、大規模データのシーケンシャルな転送処理など高バンド幅を必要とするワークフローをサポートします。SATAは、リッチメディア、地震モデルの管理、ストリーミングメディアの一時的な格納など、大規模データの移動を定期的に必要とするアプリケーションに最適なソリューションです。

データ・ライフサイクル管理 - 従来のテープベースに代わる強力なソリューション

ワークグループやデータセンターが扱うすべてのデータを最新のファイバチャネル・ディスクに格納するには、多額のコストがかかります。このためほとんどの企業では、データの格納にはディスクシステムとテープシステムを組み合わせたデータ管理モデルを導入しています。しかしクリティカルなデータをハイパフォーマンスなディスクに格納し、その他はテープ・サブシステムに格納するというようなわずらわしいマニュアルのプロセスは、もう必要ありません。SATA対応のTP9500Sは、ディスクの性能を大容量のストレージ・テープ並みの低価格で提供するユニークなソリューションを求めるユーザに新たな選択肢を提供します。用途に応じて、ビジネスクリティカルなデータはファイバチャネル・ディスクに格納し、最高レベルの性能を必須としないデータは、SATA対応のTP9500Sに格納できます。そしてほとんどアクセスすることのない参照用データはテープシステムに保管します。また、SGIのInfiniteStorage Data Migration Facility (DMF)を使用することで、時間とともに変化するデータの価値の管理プロセスが改善されます。データ・ライフサイクル管理を透過的かつ完全に自動で実行することで、お客様は、コスト効率よくストレージ稼働率を最大にすることが可能となります。

ヘテロジニアスな（異機種混合）環境に対応するマルチOSサポート

TP9500Sは、異なるシステム環境をもつテクニカルおよびクリエイティブ分野におけるユーザのデータアクセスのニーズに対応して設計されています。IRIX®オペレーティング環境に加え、Solaris™、Windows® 2000、およびLinux®の各プラットフォームに対応しています。InfiniteStorage共有ファイルシステムCXFS™を用いると、TP9500Sの異機種混合環境への対応機能がさらに拡張され、ファイバチャネル経由の高速なデータ共有が実現されます。CXFS SAN環境では、IRIX、Solaris、AIX®、Windows、MAC OS®、Linuxといったどのシステムからでも、データのコピーやネットワーク・マウントの必要なく、瞬時にデータを共有することができるようになります。

SATA - データ保護ストラテジの中核

ポイントインタイム・コピー、リモート複製の各機能は、オプションのSGI InfiniteStorageボリュームマネージャXVMのスナップショットおよびミラーリング機能によって提供されます。これらの機能によって、TP9500Sの性能はさらに補強され、データ保護に最適なプラットフォームとなります。



SGI® InfiniteStorage TP9500S Storage Array

格納された業務データのスナップショットはオンラインで頻繁に実行されます。オンラインのストレージ上にあるスナップショット・ボリュームをTP9500Sにバックアップするため、アクティブ・ボリュームにバックアップ処理が入ることはありません。したがって、バックアップはより容易に短時間で実行され、アプリケーションの処理がバックアップ・プロセスによって妨げられることもありません。さらにXVM Snapshotは、直近のバックアップ以降に作業者またはアプリケーションのエラーによって消失したデータがあった場合に、これを迅速に回復する機能も備えています。ファイル単位の配置やリカバリが必要な場合も、TP9500Sではこれまでのテープベースのバックアップによる復旧に比べて、より簡単に迅速な対応が実現されます。

エンタープライズクラスの管理ツール

TP9500Sには、パワフルで直観的なGUIベースのストレージ管理ツールSGI TPSSMが標準装備されています。これにより、1台あるいは複数のSGI InfiniteStorageディスクアレイを中央で管理・モニターすることができます。TPSSMは、TP9500をシングルシステムとして管理することも、あるいはオプションのパーティション機能を用いて、2,048パーティションまでの仮想システムに分割して管理することもできます。オプションのSGI InfiniteStorageリソースマネージャは、アプリケーションからファブリック、さらに各ディスクドライブレまでの環境下のすべてのストレージ・リソースの管理を実現する、包括的な単一のストレージ管理ツールとなっています。

SGI InfiniteStorage TP9500S Storage Array システム仕様

基本システム <ul style="list-style-type: none">・コントローラ デュアルアクティブ2Gb FCコントローラ・RAID レベル 0, 1, 1+0, 3, 5・キャッシュ コントローラあたり1,024MB、TP9500Sあたりのキャッシュは合計で2,048MB・キャッシュ バックアップ 最大7日間・LUN パーティションあたり最大256・LUN最大値 TP9500Sあたりの2,048 (オプション製品のパーティショニングS/Wが必要)・ボリューム グループ RAID 5 グループは最大30ドライブ (29+1)・ストライピングサイズ 16、32、64、128、256・グローバル・ホットスベア 最大15ディスクドライブ・リモート管理 2つのイーサネット・ポートによるリモート管理・システム診断 2つのRS-232ポートによるシステム診断	ソフトウェア管理 <ul style="list-style-type: none">・SGI TPSSM (標準装備)・SGI InfiniteStorage TP9300、TP9300S、TP9500と同一のソフトウェア管理機能・ダイナミックRAIDレベル・マイグレーション・ダイナミック・セグメントサイズ・マイグレーション・ダイナミック・デフラグメンテーション・ILA (Immediate LUN availability)・パフォーマンス・モニタ・統合ファームウェア・アップグレード・エンタープライズ管理ウィンドウによる管理範囲内のすべてのTP9300、TP9300SおよびTP9500ストレージ・システムの包括的ビューの提供 アレイ・ソフトウェア (オプション) <ul style="list-style-type: none">・TPSSMパーティショニング TP9500Sあたり最大64パーティション	寸法と重量 ラック <ul style="list-style-type: none">・幅 56.0cm・奥行き 91.4cm・高さ 182.9cm (38U)・最大重量 638kg・最小重量 121kg (ラックのみ) コントローラエンクロージャ <ul style="list-style-type: none">・幅 48.2cm・奥行き 61.0cm・高さ 17.5cm (4U)・重量 44kg ドライブエンクロージャ <ul style="list-style-type: none">・幅 48.2cm・奥行き 57.9cm・高さ 13.1cm (3U)・重量 40kg (14ディスク搭載時)
ホスト・インタフェース <ul style="list-style-type: none">・4つの2Gbファイバチャネル・ホストチャネル、各チャネルは200MB/秒スループット、FC-ALまたはFC-SW接続・4つの光ホスト・ミニハブ (ホストチャネルあたり1つ)と各ホスト・ミニハブに2つのLCコネクタを搭載、TP9500コントローラ・エンクロージャあたり8つの個別のFC-AL (ポイント・ツー・ポイント) ホスト接続、または4つの冗長ホスト接続が可能・ホストへのスループットはトータルで800MB/秒・コマンド・タグを最大256まで配列可能	ホスト・ソフトウェア <ul style="list-style-type: none">・XVM SGIシステム対応ボリュームマネージャ;パフォーマンスと優れたデータ管理を実現する論理データ構造を実装した仮想アーキテクチャ・XFSS SGI IRIX、Linuxシステム対応のハイパフォーマンス64ビット・ジャーナルファイルシステム ホスト・ソフトウェア (オプション) <ul style="list-style-type: none">・XVM Plex ミラーリング・XVM Snapshot ファイルシステム・ベースでデータのポイントインタイム・スナップショットを作成;膨大なデータのファイルシステムでもシステム全体を1つのスナップショットとしてコピー	サポートホスト <ul style="list-style-type: none">・IRIX®, Solaris™、Windows® 2000、Linux®・CXFS™環境: IRIX、Solaris、Windows® NT、Windows 2000、AIX®, 32-bit Linux、64-bit Linux、MAC OS® X ストレージ容量 <ul style="list-style-type: none">・ディスクドライブ 250GB (7,200RPM)、400GB (7,200RPM)・ドライブ数 ドライブエンクロージャあたり: 4-14ドライブ コントローラ・エンクロージャあたり: 最大224ドライブ (16ドライブエンクロージャ56TB) ラックあたり: 最大154ドライブ
メディア・インタフェース <ul style="list-style-type: none">・4つの冗長2Gbファイバチャネル・ドライブチャネル、各チャネルは200MB/秒スループット・4つの光メディア・ミニハブ (コントローラあたり2つ)と各メディア・ミニハブに2つのLCコネクタを搭載、8つのループまたは4つの冗長チャネル経由でドライブ拡張モジュールに接続・メディアへのスループットは800MB/秒	動作環境 <ul style="list-style-type: none">・電源 単相AC200v 50/60Hz (180 ~ 250vac) NEMA L6-30R (2回路)・電源容量 4.41 kVA・消費電力 4.37 kW・発熱量 3,758kcal/h・環境 動作時温度 10 ~ 35°C 動作時湿度 10 ~ 80% (ただし結露しないこと)	

©2005 SGI Japan, Ltd. All rights reserved. 仕様は予告なしに変更される場合があります。Silicon Graphics、SGI、IRIX、CXFS、SGI のロゴマーク、およびSGIのキューブは日本SGI株式会社の登録商標です。The Source of Innovation and Discoveryは米Silicon Graphics, Inc.の商標です。Windows、およびWindows NTはMicrosoft Corporationの登録商標です。LinuxはLinus Torvalds氏の登録商標です。SolarisはSun Microsystems, Inc.の商標です。このデータシートの中であげられたその他の商標については商標の所有者に所有権が属しています。(05/2004)

日本SGI株式会社

〒150-6031 東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー31階

TEL : 0120-161-086 FAX : 0120-161-087 <http://www.sgi.co.jp>

本社 TEL : 03-5488-1811 (大代表) FAX : 03-5420-7201
西日本支社 TEL : 06-6343-6700 (代表) FAX : 06-6343-6713
中部支社 TEL : 0565-35-2561 (代表) FAX : 0565-35-2189
つくば・東北事業所 TEL : 029-858-1551 (代表) FAX : 029-858-1071
東北営業所 TEL : 022-221-2301 (代表) FAX : 022-221-2304
テクニカルサポートセンター
横浜ラーニングセンター TEL : 045-682-3700 (代表) FAX : 045-682-0850